

8.1 基本方針

大阪・関西万博の想定来場者数2,820万人の円滑な来場を実現するために、鉄道・道路・海路・空路等の既存交通インフラを最大限活用したアクセスルートを計画する。各アクセスルートのバランスのとれた利用を図るため、ICTを活用し、各種誘導施策を展開するとともに、適切なルートや混雑状況等の情報を提供する。

また、大阪府内の企業へ時差出勤やテレワークの活用を呼びかけ、ピーク時間帯の交通負荷の軽減を図るとともに、鉄道やシャトルバスへの乗換が安全・円滑にできるよう、MaaS等の新しい技術を積極的に取り入れながら、関係機関・事業者等と連携して混雑の解消に取り組む。

鉄道

大阪メトロ中央線のコスモスクエア駅から会場となる夢洲に鉄道(北港テクノポート線)が延伸され、新たな駅が建設される予定であり、これらが主な公共交通ルートとなる。なお、大阪・関西万博会期中にはこれらの鉄道の輸送力が増強される。

自動車

一般の自家用車については、会場から概ね15km圏内に設ける会場外駐車場でバスに乗り換えるパークアンドライド方式を採用し、夢洲への乗り入れは、原則として禁止とする。なお、会場となる夢洲には、団体バスや障がい者専用の駐車場、シャトルバス、パークアンドライドバス及びタクシーの乗降空間となる交通ターミナルを設ける。

効率的な駐車場及び交通ターミナル運用の観点から、団体バス及び自家用車(障がい者利用車両含む)の駐車場等の利用については、原則として事前予約制とする。

シャトルバス(主要駅・空港)

鉄道主要駅及び空港から万博会場まで直通で運行するシャトルバスを設ける。シャトルバス乗降場は、会場西ゲートに隣接する交通ターミナルに設ける。

海路・空路

会場が島というロケーションを活かして、船によるアクセスの導入も検討する。旅客の乗降場は夢洲の北側エリアに設けることを検討する。

ナショナルデー、スペシャルデー等で万博会場を訪れる海外の賓客が関西国際空港や神戸空港を利用する場合も、船やヘリコプター等海路及び空路でのアクセスを検討する。

